

新興国でも進む金利低下・通貨安(対円)～長期的に買い場の通貨も

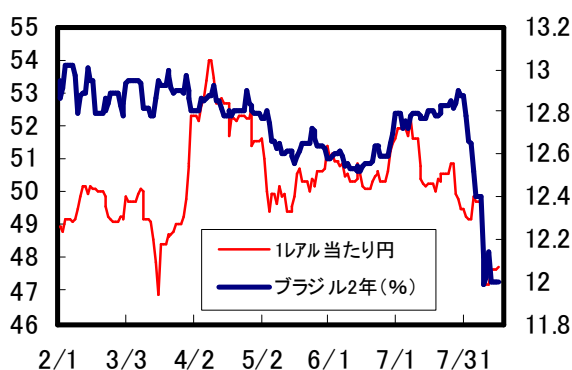
2011年8月15日 投資調査部長
鈴木 英之

★ 金利低下がもたらす新興国通貨の下落～ただし通貨によっては買い好機も

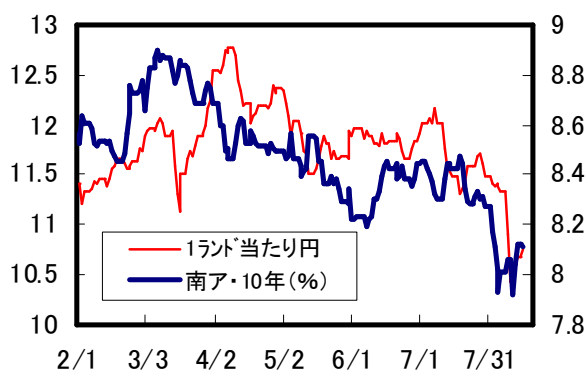
先進国のみならず、新興国でも金利低下と通貨下落(対円)が進んでいる。主な新興国の動きは以下の通りである。金利低下の背景は、①先進国の景気減速が新興国にも波及する懸念、②米国のQE2(量的緩和第2弾)終了によるインフレ期待の後退、③欧米の財政不安による世界的な株式から債券への資金シフト等が考えられる。なお、金利低下は、金利面でこれらの国の通貨の魅力を減少させる要因となる。即ち、先進国での金利低下が新興国通貨の下落の大きな要因となっている。

今後も新興国の金利低下が続いた場合、新興国通貨の下落も続く可能性があり、注意が必要である。反面、内需が引き続き堅調な国も少なくなく、金利低下が止まれば通貨が反転する国も出てくるであろう。また、世界的にリスク許容度の低下が指摘されるものの、新興国債券が売り込まれることなく、むしろ買われていること自体、新興国経済の自力向上を示す現象と理解することも可能であろう。

★ブラジルの国債利回りと対円相場

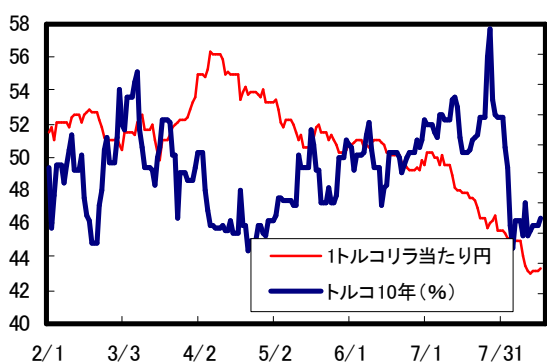


★南アフリカの国債利回りと対円相場

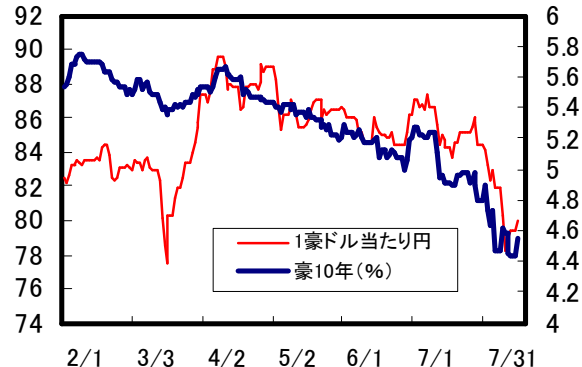


BloombergデータをもとにSBI証券が作成

★トルコの国債利回りと対円相場



★豪州の国債利回りと対円相場



BloombergデータをもとにSBI証券が作成

【本資料の免責事項・注意事項】

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。